

症例 3

歯牙移植で喪失歯の回復と、歯列矯正を行った症例

40才女性 残存歯 $\begin{array}{c} 7-7 \\ 7-3 \quad 1-7 \end{array}$

左下奥歯 $\begin{array}{c} | \\ 7 \end{array}$ が揺れて咬めないとの訴えで来院。レントゲン検査の結果

$\begin{array}{c} | \\ 7 \end{array}$ 保存不能のため抜歯を行う。

口腔内模型を取ってカウンセリングすると、左側上下前歯の歯並びが悪いことで以前より数カ所の歯科医院で相談するも、治らないといわれていたことも判明。

初診時、 $\begin{array}{c} | \\ 1 \quad 4 \end{array}$ の間のスペースは、 $\begin{array}{c} | \\ 2 \end{array}$ 1歯分の歯冠幅しかないため、 $\begin{array}{c} | \\ 2 \end{array}$ が内側(口蓋側)に $\begin{array}{c} | \\ 3 \end{array}$ が外側(唇側)に転移していた。

その $\begin{array}{c} | \\ 2 \quad 3 \end{array}$ の歯の間に下の2本 $\begin{array}{c} | \\ 2 \quad 3 \end{array}$ が入り込み、この部でロックがかかり自由に顎を動かせない状態でした。

右下前歯2本 $\begin{array}{c} | \\ 3 \quad 1 \end{array}$ ($\begin{array}{c} | \\ 2 \end{array}$ が先天欠如)も捻転のため、切端部に激しい咬耗を認めました。

顎関節症状はないので臼歯の咬み合わせはこのままで、前歯治療を行うことにしました。

矯正装置を入れずに短期間で、歯並びを治したいというご希望もあったため、最初に補綴矯正時に

不要となる左上犬歯 $\begin{array}{c} | \\ 3 \end{array}$ を抜歯して歯のなくなった $\begin{array}{c} | \\ 7 \end{array}$ 部へ歯牙移植し冠をかぶせる。

① 次に左上側切歯 $\begin{array}{c} | \\ 2 \end{array}$ を $\begin{array}{c} | \\ 1 \quad 4 \end{array}$ の間に歯列がそろうようにソケットを形成し歯牙移植。

② 最後に下の前歯3本 $\begin{array}{c} | \\ 1 \quad 2 \quad 3 \end{array}$ のうち $\begin{array}{c} | \\ 2 \end{array}$ を抜いてスペースを確保し 残り2本 ($\begin{array}{c} | \\ 1 \quad 3 \end{array}$) の抜歯を行って、歯列がそろうようにソケット形成して歯牙移植。

移植歯の固定は仮歯で行っているの、見かけ上前歯のない期間は1日もありません。

2～3ヶ月で移植歯は全く揺れなくなりますので、補綴物(ジルコニアセラミック)をかぶせて治療終了。

※①だけ又は②だけ行くと、不正咬合の対合歯が突き上げて咬めない、①②は同時に行わないといけません。つまり、一回の治療で上下歯並びが仮歯ではありますが、一挙に治ってしまいます。

※移植歯と非移植歯の歯頸部歯肉ラインが合いにくいので、歯肉の長い部位は歯肉切除、歯肉の短い部位は歯肉を伸ばして合わせていきます。

※ジルコニアセラミックとは (症例7)